

学生の確保の見通し等を記載した書類

I 目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
1) 学生の確保の見通し	2
2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	7
2. 人材需要の動向等社会の要請	7
1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	7
2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	7

II 添付資料目次

資料1 名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査結果（令和3年1月）	1
資料2 名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査結果（看護系大学・専門学校・病院対象）（令和3年2月実施）	7
資料3 名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査（依頼）	16
資料4 名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査（看護系大学・専門学校・病院対象）（依頼）	22
資料5 近隣競合校の志願状況	28
資料6 沖縄県内大学院看護学研究科看護学博士課程位置図	29

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1) 学生の確保の見通し

(1) 定員充足の見込み

看護学研究科看護学専攻博士後期課程（以下「本博士後期課程」という）の入学定員は2名、収容定員は6人とした。この定員設定は、十分な研究、教育指導を可能とするための教育体制を整えるとともに研究指導教員数（6人予定）と学生数のバランスを考慮したものである。

平成23年に開設した大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（以下「本学修士課程」という。）では、沖縄のケアリングを基盤として新たな看護実践方法を開発する看護専門職者の育成と看護教育研究者の育成を目的とし、各専門分野における看護学の実践理論を探究し、高度専門職業人及び教育・研究者の育成を教育理念としている。本学修士課程入学定員は6人であり、開設から現在に至るまで、安定的に定員を充足している。

本博士後期課程の入学者は、看護系大学教員及び保健医療福祉機関において高度な実践及び教育や研究に携わる看護職を想定している。本博士後期課程への受験希望者は、その大半が就労を継続しながら学ぶ社会人学生になると予想される。については、本博士後期課程の教育を受ける学生の多くが職場の支援を前提にするものと考えられることから、修了後の進路は確保されていると見込まれる。

具体的な修了後の進路は、①看護系大学・大学院における質の高い教育を実践する教育研究者、②保健・医療・福祉機関における地域医療を牽引する看護職の継続教育を主導する看護教育担当者、③看護ケアや看護実践の改善・改革を推進する看護専門職者を想定している。

本博士後期課程の定員は、修士課程の入学定員数及び進学ニーズを考慮し、適切な定員設定であると考えている。資料1で示すとおり、本学修士課程の在学生及び修了生を対象に実施したアンケート調査結果では、回答者38人中「進学を希望している」が10人（26.3%）、「進学に興味がある」が13人（34.2%）と合計23人（60%）から進学する意向がある回答を得たことから、定員確保に問題ないことが確認できた（表5、図5）。

さらに、資料2で示すとおり、九州・沖縄地区の看護系の高等教育機関及び沖縄県の専門学校並びに病院の看護管理者へ博士後期課程修了者の採用意向に関するアンケート調査では、回答者46人中「採用したい」が14人（30%）、「採用を検討したい」が15人（33%）と合計29人（63%）から採用意向があることが確認できた（表10、図10）。

【資料1】名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査結果（令和3年1月実施）

【資料2】名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査結果（看護系大学・専門学校・病院対象）（令和3年2月実施）

(2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本博士後期課程の設置にあたり、学生の確保の見通しを立てるために、令和3年

1月25日（日）から2月5日（金）にアンケート調査を実施した。調査方法は、本学修士課程の在学生及び修了生並びに本学の間健康学部看護学科教員を対象に、アンケート調査を依頼（QRコード付き依頼文）し、携帯電話、スマートフォン、iPhone等によるインターネット上で進学意向調査を行った【資料3】。

アンケート調査対象者は、本学修士課程在学生15名、本学修士課程修了者40名、本学看護学科教員32人に依頼し、46人から回答（回収率53.8%）を得た（有効回答率100%）。

また、博士後期課程修了者の採用意向調査に関しては、令和3年2月1日（月）から2月15日（月）にアンケート調査を実施した。調査方法は、九州・沖縄地区の看護系の高等教育機関及び沖縄県の専門学校及び病院の看護管理者を対象に、アンケート調査を依頼（QRコード付き依頼文）し、携帯電話、スマートフォン、iPhone等によるインターネット上で進学意向調査を行った【資料4】。

アンケート調査対象者は、九州地区看護系大学30大学、県内看護系専門学校5校、県内病院（250床以上の施設）32か所に依頼し、大学21人、専門学校7人、病院・診療所18人の46人から回答を得た（有効回答率100%）。

主な結果は以下のとおりである。

【資料3】名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査（依頼）

【資料4】名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査（看護系大学・専門学校・病院対象）（依頼）

(3) 博士後期課程への入学意向【資料1】

資料1の調査結果から、本博士後期課程への関心の高さが明らかになった。

「修士取得済」が26人（56.5%）、「修士課程に在学中」が12人（26.1%）と合計38人（82.6%）に対して、本博士後期課程に対する受験意思に関する質問をしたところ、「大学院博士課程への進学希望」については、「進学を希望している」が10人（26.3%）と明確な進学意志を表明し、「進学に興味がある」が13人（34.2%）と合わせると23人（60.5%）が本博士後期課程の進学に前向きであることが確認できた（表5、図5）。その中で、「大学院が開設されれば、入学するか」との質問には、「入学したい」が10人（43.4%）、「入学を検討したい」が11人（47.8%）と好意的な回答があった（表7、図7）。「進学時期」は、「令和4年（開設予定年度）」が7人、「令和5年度」が4人、「令和6年度」が3人、「令和7年度以降」が7人であった（表8-1、図8-1）。さらに、「入学したい」と回答した10人（43.4%）の「進学時期」については、「令和4年（開設予定年度）」が6人、「令和5年度」が2人、「令和7年度以降」が2人であることがわかった（表8-2）。

本学博士後期課程へ「入学したい」又は「入学を検討したい」とした理由では、「臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので」が14人（67%）、「博士の学位を修得し、キャリアアップを図りたいので」が12人（57%）、「将来、教育者、研究者になりたいので」が6人（29%）、「将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたいので」が3人（14%）であった（表9、図9）。また、「大学院博士後期課程のどの分野に関心があるか」に関する質問では、「生活支援

看護学分野（地域包括看護学又は精神保健看護学）希望者が12人（52.2%）、「応用看護学分野（がん看護学又は成育健康看護学）」の希望者が11人（47.8%）、「基盤看護学分野（看護キャリア開発学）希望者が4人（17.4%）であった（表6, 図6）。これらのことから、自己の看護職者としての専門知識の修得、キャリアアップや成長といった現実的な目標に到達する手段として、本博士後期課程を捉えているものと考えられる。

「進学先を選ぶ際に重視する点（重視した点）」に関する質問では、「指導を受けたい教授・教員がいる」が30人（73%）、「働きながら学べる」が22人（54%）、「学びたい教育プログラムがある」が19人（46%）、「研究に重点がおかれている」が17人（41%）であった（表10, 図10）。この度のアンケート調査の回答者は、病院で勤務する看護専門職者18人（39.1%）と看護教員15人（32.6%）であった（表2, 図2）。これらのことから、職業を有している看護専門職者や看護教育者に対しては、昼夜開講や長期履修制度の導入の必要性が示唆された。

【資料1】<再掲>名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査結果（令和3年1月）

(4) 博士後期課程採用意向に係るアンケート調査〔資料2〕

資料2の調査結果から、本博士後期課程の必要性と修了者の採用需要について、次の結果が得られた。

回答者の所属を県別にみると、最も多かったのは、沖縄県が23件（50%）、次いで、宮崎県が8件（17%）、福岡県が5件（11%）であった（表1, 図1）。

所属機関が「大学」と回答した21件（46%）のうち、博士後期課程がなく学士課程・修士課程（博士前期課程）のみの大学が8大学（40%）、博士課程を設置している大学が12大学（60%）であった（表3, 図3）。また、回答者の所属する高等教育機関において、大学院博士後期課程修了者が「勤務している」が21件（46%）で、「博士後期課程修了者が勤務していない」が18件（39%）であった。（表4, 図4）。

また、専門学校に絞って集計したところ、博士後期課程修了者は「勤務している」が2人（29%）、「勤務していない」が5件（71%）であった（表5, 図5）。このことから、大学設置基準に規定する教員審査が厳格な大学と専門学校との教育の質における格差が、雇用の有無に反映されていることが伺える。

さらに、病院・診療所に絞って集計したところ、博士後期課程修了者は「勤務している」が0%となっている（表6, 図6）。このことから、博士後期課程修了者は、教育機関等への就職が多いことが伺える。

「博士後期課程修了者が勤務している」と回答した高等教育機関等における雇業者数については、「4人以上」が18件（86%）で最も多く、大学、専門学校においても、看護教育の質向上の観点から、博士後期課程修了者のより一層の充足が求められていることが伺える（表7, 図7）。

本博士後期課程では、「基盤看護学分野（看護キャリア開発学）」、応用看護学分野（がん看護学又は成育健康看護学）、生活支援看護学分野（地域包括看護学又は精神保健看護学）の3つの分野を設けており、その養成する人材の需要に関する質問では、「とても必要だと思う」が16件（35%）、「必要だと思う」が22件（48%）

合計 38 件 (83%) であった (表 8, 図 8)。このことから、本学が養成する博士後期課程修了者は、これからの社会に必要であることが確認できた。また、「関心のある分野に関する質問では、「基盤看護学分野 (看護キャリア開発学)」が 34 件 (74%)、「応用看護分野 (がん看護学又は成育健康看護学)」が 20 件 (44%)、「生活支援看護学分野 (地域包括看護学又は精神保健看護学)」36 件 (78%) であった (表 9, 図 9)。これらの回答から本博士後期課程に設置する 3 つ分野の内、どの分野に関心を持たれているかわかった。

また、本博士後期課程修了者の採用意向に関する質問では、回答者 46 件中「採用したい」が 14 件 (30%)、「採用を検討したい」が 15 件 (33%) と合計 29 件 (63%) の採用意向があることがわかった (表 10, 図 10)。

「採用したい」、「採用を検討したい」を選択した 29 件 (63%) のうち、「採用が可能と思われる人数」は、「1 人」が 21 件 (72%)、「2 人」が 3 件 (10%)、「3 人」が 1 件 (3%)、「4 名以上」が 4 件 (14%) と本博士後期課程の入学定員 2 人、収容定員 6 人に対し、十分な採用需要があることが確認できた (表 11, 図 11)。

最後に、今後の看護において、必要と思われる人材像に関する質問では、「人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行うことができる教育研究者」が 37 件 (80%)、「看護学の発展に寄与できる教育研究者」が 30 件 (65%)、「沖縄の歴史やケアリング文化に根ざした看護を発展・創造する教育研究者」が 10 件 (22%) であった (表 12, 図 12)。

以上の調査結果から、本博士後期課程の設置は、博士課程への進学を目指す看護教員や看護専門職者のニーズに合致し、継続的な学生確保に問題がないことが確認できたものとする。

【資料 2】 <再掲>名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程 (設置構想中) に係るアンケート調査結果 (看護系大学・専門学校・病院対象) (令和 3 年 2 月実施)

なお、自由記述は以下のとおりである。

【自由記述】

- 他県からでも学べるように、できるだけ遠隔教育で単位取得が出来る体制を整えてほしい。
- 沖縄県の看護職に是非ケアリングを広め看護の原点を考える機械を広めて欲しい。
- 遠隔での履修を可能にしてほしい。
- 貴学で本課程が開設されることは、今後の地域の発展につながると思います。
- 豊かな沖縄の環境の中で文化、ケアリングを深く考察できるので、想像力豊かな独創性のある研究ができるのではと期待されます。
- 北部に研究ができる環境が整うことを期待しています。
- 看護系の大学院が増え、教育を受けた修了生が増えていくことは看護自体を発展させることになると考えるので望ましい姿だと思います。これまでかなりのス

ピードで大学化したように思えるので、これから実質が備わっていくように博士を持った看護職がいろいろな現場で活躍していくことを希望します。

- 県内では看護系大学が3校しかないので、3校が力を結集して県民のための人材育成を発展的に推進できることを祈っています。北部地区の人材育成にとって重要な拠点だと思います。応援しております。
- 看護学の実践、教育、研究のバランスの取れた人材育成を期待しております。
- 研究支援金の設置はとても参考になった

(5) 学生納付金の設定の考え方

本博士後期課程の学生納付金は、次のとおり設定している。

(表1) 本学看護学研究科看護学専攻博士後期課程の学生納付金

	地域内 ^{※1}	地域外 ^{※2}	備考
入学金	125,000 [※]	250,000	①長期履修制度（最大6年間を利用する場合も、3年分の授業料で在籍できる。
授業料（年額）	535,800	535,800	②本学卒業生・修了生の入学金は、「地域内」の半額となります（62,500円）。

※1「地域内」とは、以下に該当する場合をいう。

①入学する者の最終出身高等学校が沖縄本島北部に所在している場合。

②入学する者の住所が沖縄本島北部12市町村にあり、入学する年の3月31日以前から1年以上在住している場合。

③入学する者の保護者の住所が沖縄本島北部12市町村にあり、入学する年の3月31日以前から1年以上在住している場合。

《沖縄本島北部12市町村とは》

沖縄県の「名護市」、「本部町」、「金武町」、「国頭村」、「東村」、「大宜味村」、「今帰仁村」、「宜野座村」、「恩納村」、「伊江村」、「伊是名村」、「伊平屋村」のことをいう。

※2 上記以外とする

本学の授業料は、国立大学の標準額に準じて設定しており、沖縄県内の他の国公立大学大学院の授業料と同額である。入学金は、県内国公立大学大学院の中で最も低く設定している。

なお、「地域内」に該当する者については、本学人間健康学部及び看護学研究科修士課程と同様に、入学金を「地域外」の半額に設定する。また、本学修士課程修了生の入学金は、「地域内」の半額とする。

(表2) 沖縄県内護系大学院の学生納付金

大学等の名称	入学金		授業料年間	備考
	域内	域外		
琉球大学 琉球大学保健学研究科 (博士後期課程)	282,000円		535,800円	
沖縄県立大学 保健看護学研究科保健看護学専攻 (博士後期課程)	282,000円 ^{※1}	512,000円	535,800円	※1「県内居住者」
名桜大学 看護学研究科看護学専攻 (博士後期課程)	125,000円 ^{※2}	250,000円	535,800円	※2「地域内」

2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学修士課程の在学学生及び修了生には、前述したアンケート調査時に博士後期課程の設置準備を進めていることを説明、周知している。当調査における自由記述においては、本博士後期課程設置構想に対し、肯定的な意見等が多数寄せられている。これは本博士後期課程が設置されることへの期待の表れだと捉えている。

修士課程在学学生に対しては、年次オリエンテーション等であらためて本博士後期課程について説明し、興味・関心を持ってもらうように指導する。

また、本学ホームページ、県内マスメディア、進学情報誌等を活用し、学内外へ広く周知することとしている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本学がすでに設置している大学院看護学研究科修士課程では、沖縄のケアリングを基盤として新たな看護実践方法を開発する看護専門職者の育成と教育研究者や教育者の育成を目的とし、各専門分野における看護学の実践理論を探究し、高度専門職業人及び研究・教育者の育成を教育理念としている。

博士後期課程においては、この理念を踏まえ、沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解をもとに、人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行い、看護学の発展に寄与する高度な研究能力を有する教育研究者を育成する。

2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

我が国では看護基礎教育の高等教育化への移行に伴う看護系大学・大学院の急増により、看護系大学教員の不足は全国的な問題になっている。「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」(2011(平成23)年3月)では、「博士課程教育の充実方策は今後の検討課題であり、教育者、研究者養成及び看護学の学術発展の観点から、博士課程(博士後期課程)の充実は極めて重要である」と述べられている。

「未来を牽引する大学院教育改革」(中央教育審議会大学分科会、2015(平成27)年9月)では、体系的・組織的な大学院教育の推進と質保証の観点から将来の大学院教員の教育能力養成のためのシステム構築の必要性が指摘されている。中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」では、大学院教育の基本的な前提として「看護系大学院における人材養成においては看護学の学術研究を通じて社会に貢献できる研究者や教育者の養成」の必要性が指摘されている。

一方、沖縄県内における看護基礎教育は看護系大学が3校(国立学校法人琉球大学医学部保健学科(看護以外の他コース含む)、沖縄県立看護大学、本学)のみである。また、博士後期課程については、2004(平成16)年に沖縄県立看護大学看護学研究科保健看護学専攻博士後期課程が、2007(平成19)年に琉球大学保健学研究科保健学専攻博士後期課程が設置された。琉球大学は人間健康開発学と国際島嶼保健学の2教育研究領域からなり、入学定員3人、沖縄県立看護大学は、文化間保健看護、生涯発達保健看護、先端保健看護の3教育研究分野からなり、入学定員2人を設定している。令和2(2020)年度志願倍率は、それぞれ2.0倍、1.0倍であり、定員を満たしている【資料5】。

しかしながら、博士後期課程が2大学に設置されているとはいえ、島嶼県である本県における看護系大学教員の確保の困難さは常態化し、大きな課題となっている。他県のような近隣県を含めた教員の確保が困難であること、また、本県において博士後期課程への進学を希望するものの、在職しながら県境を越える通学の困難さがある。

特に沖縄県北部地域の看護教員や臨床の看護師、保健師が県内外で博士後期課程に進学しようとした場合、県内での定員数が限られていること、また、県内であっても通学のために往復で2時間かかる(車・高速道路使用)という距離的な問題から進学を断念する状況にある【資料6】。沖縄県内の均衡ある看護学発展のためには、本学への博士後期課程における設置は急務であり、保健・医療・福祉の課題に取り組む看護人材の養成に資する教育研究者の確保が喫緊の課題となっている。

したがって、本学に高度な研究能力をもった教育研究者を育成する看護学研究科看護学専攻博士後期課程を設置する意義は深く、その緊急性は極めて高い。博士後期課程修了者は、学際的、独創的な研究を行うことができる高度な研究能力を有する教育研究者として、沖縄県の看護教育を支えると共に、研究成果を国内外問わず広く社会に発信し貢献するものと考えられる。

【資料5：近隣競合校の志願状況】

【資料6：沖縄県内大学院看護学研究科看護学専攻博士課程位置図】

名桜大学大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程(設置構想中)に係るアンケート調査結果(令和3年1月実施)

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、名桜大学(以下、本学)において、看護学専攻科看護学専攻博士後期課程の開設にあたり、本学の大学院看護学研究科看護学専攻修士課程の高等教育機関での修士課程修了者の需要を調査することで、本学博士課程開設の必要性を確認し、実証することを目的として実施したものである。

2. 調査の時期

令和3年1月25日(月)～ 2月5日(金)

3. 調査対象

大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)在学生、大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)修了生、人間健康学部看護学科教員

4. 調査方法

インターネット調査(Googleフォームを活用し、専用のQRコードより読み込み回答)

5. 回収状況

有効回答数 46名、回収率は53.8%であった。

問1 あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

表1: 年代別 n=46

1.20歳代	8	17%
2.30歳代	3	7%
3.40歳代	14	30%
4.50歳以上	21	46%
総計	46	100%

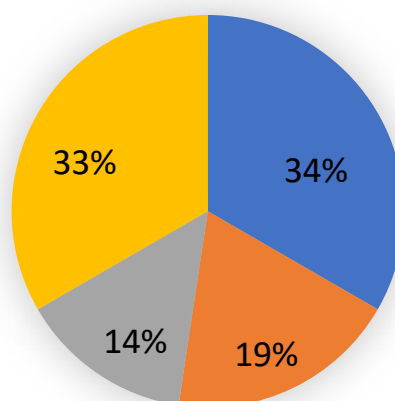


図1: 年代別の割合

問2 あなたの現在の職種を教えてください。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

表2: 職種別 n=46

1.看護師	18	39.1%
2.保健師	5	10.9%
3.助産師	4	8.7%
4.看護教員	15	32.6%
5.その他	4	8.7%
総計	46	100%

※「その他」には、院生、家事、学生、大学院生が含まれる。

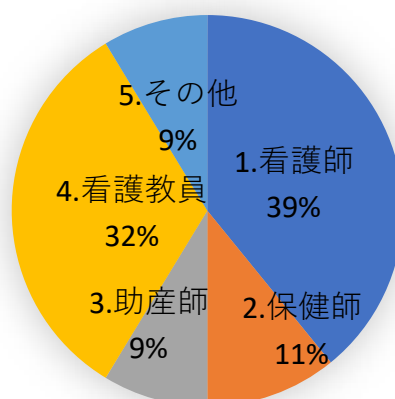


図2: 職種別の割合

問3 あなたが現在勤務している職場を教えてください。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

表3：勤務先

n=46

1.病院・診療所【病床数】300床未満	2	4.3%
2.病院・診療所【病床数】300～500床未満	7	15.2%
3.病院・診療所【病床数】500～1000床未満	0	0.0%
4.訪問看護ステーション	0	0.0%
5.高齢者福祉施設	1	2.2%
6.行政機関	2	4.3%
7.看護系の大学・養成所等	24	52.2%
8.大学院生	8	17.4%
9.その他	2	4.3%
総計	46	100%

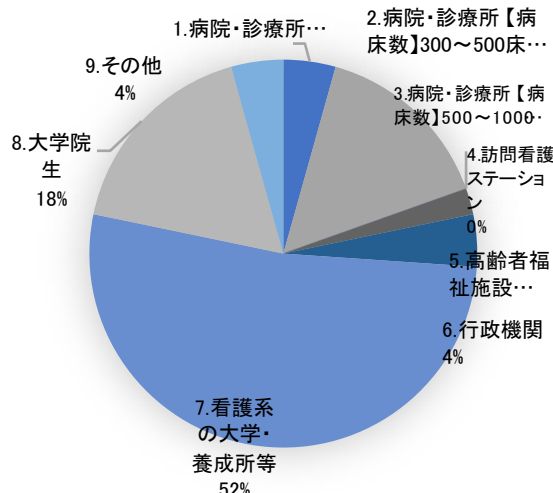


図3: 勤務先の割合

問4 あなたの取得している学位について教えてください。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

※「修士取得済み」、「修士課程に在学中」を回答した方は問5を回答。

※「博士課程取得済み」、「博士課程に在学中」、「該当しない」を回答した方は問10以降を回答。

表4-1: 学位の取得状況

n=46

1.修士取得済み	26	56.5%
2.博士取得済み	4	8.7%
3.修士課程に在学中	12	26.1%
4.博士課程に在学中	3	6.5%
5.該当しない	1	2.2%
総計	46	100%

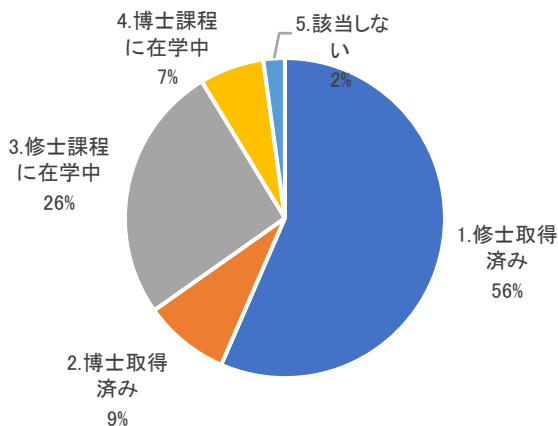


図4-1: 学位の取得状況の割合

(問4-2. で、1. 2. 3. 4.、いずれかをチェックした場合)学位の種類・名称を記載してください

表4-1: 学位の種類・名称

n=45

修士(看護学)	24	53.3%
修士(保健学)	2	4.4%
その他	19	42.2%
総計	45	100%

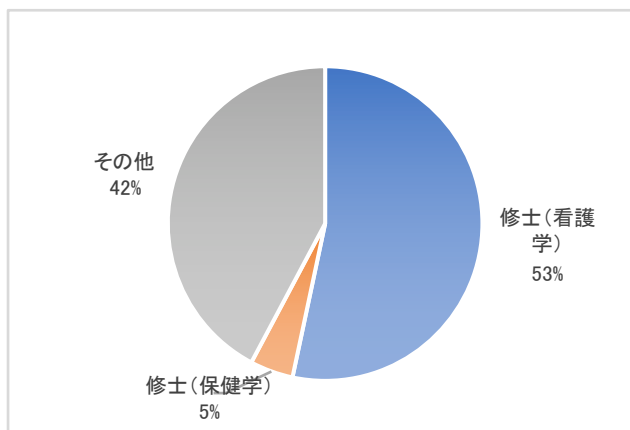


図4-2: 学位の取得状況の割合

問5 あなたは本学大学院博士後期課程への進学を希望していますか。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

※問4の設問において、「修士取得済み」、「修士課程に在学中」のいずれかを回答した38名を対象とします。

※「進学を希望している」、「進学に興味がある」を回答した方は「問6」以降すべての問いに回答。

※「わからない」、「進学を希望していない」を回答した方は問10以降を回答。

表5: 進学希望 n=38

1.進学を希望している	10	26.3%
2.進学に興味がある	13	34.2%
3.わからない	8	21.1%
4.進学を希望していない。	7	18.4%
総計	38	100%

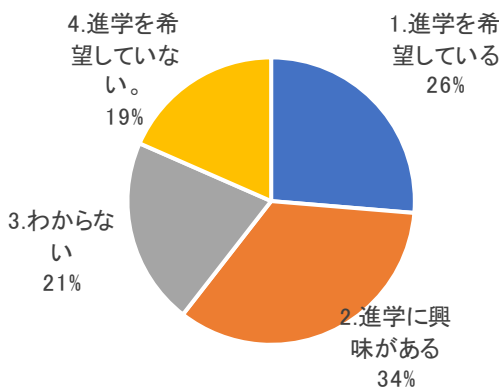


図5: 進学希望の割合

問6 本学大学院博士後期課程の、どの分野に関心がありますか。(複数回答可)

※問5の設問において、「進学を希望している」、「進学に興味がある」を回答した 23名を対象とします。

表6: 関心がある分野 n=23

1.基盤看護学分野(看護キャリア開発学)	4	17.4%
2.応用看護学分野(がん看護学又は成育健康看護学)	11	47.8%
3.生活支援看護学分野(地域包括看護学又は精神保健看護学)	12	52.2%
4.その他	0	0.0%
無回答	1	4.3%

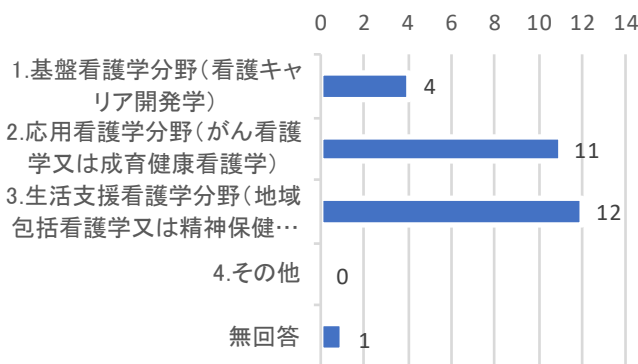


図6: 関心がある分野の割合

問7 あなたは本学大学院博士後期課程が開設されれば、入学したいと思いますか。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

※問5の設問において、「進学を希望している」、「進学に興味がある」を回答した 23名を対象とします。

※「入学したい」、「入学を検討したい」を回答した方は問8以降を回答。

※「入学したいと思わない」、「わからない」を回答した方は問10以降を回答。

表7: 入学意向 n=23

入学したい	10	43.5%
入学を検討したい	11	47.8%
入学したいと思わない	0	0.0%
わからない	2	8.7%
総計	23	100%

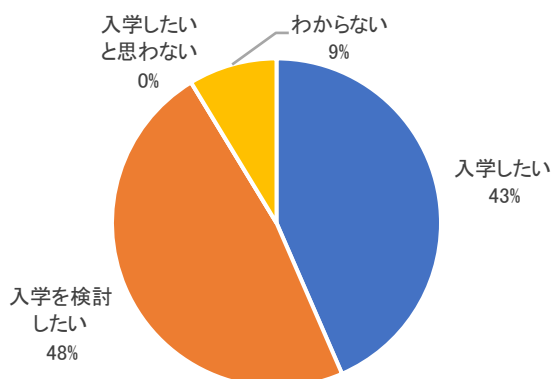


図7: 入学意向の割合

問8 名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程(設置構想中)への進学時期は、いつ頃を考えていますか。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

※問7の設問において、「入学したい」、「入学を検討したい」を回答した 21名を対象とします。

表8-1: 進学時期 n=21

1.令和4年(開設予定年度)	7	33.3%
2.令和5年度	4	19.0%
3.令和6年度	3	14.3%
4.令和7年度以降	7	33.3%
総計	21	100%

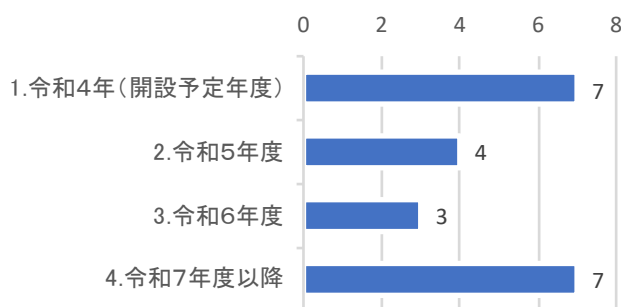


図8-1: 進学時期

8-1 問7の「入学したい」及び「入学を検討したい」と回答した21人の進学時期について集計したところ、「入学したい」を回答した者の内、「令和4年度(開設年度)6人」、「令和5年度2人」、「令和7年以降2人」と計10人いることがわかった。

表8-2

	1.入学したい	2.入学を検討したい	総計
1.令和4年(開設予定年度)	6	1	7
2.令和5年度	2	2	4
3.令和6年度	0	3	3
4.令和7年度以降	2	5	7
総計	10	11	21

問9 名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程(設置構想中)に入学する、もしくは入学を検討したいと回答した理由は何ですか。(あてはまるものすべてにチェックしてください)

※問7の設問において、「入学したい」、「入学を検討したい」を回答した 21名を対象とします。

表9: 入学を検討した理由 n=21

1.臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので	14	67%
2.博士の学位を取得し、キャリアアップを図りたいので	12	57%
3.将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたいので	3	14%
4.将来、教育者、研究者になりたいので	6	29%
5.その他	0	0%

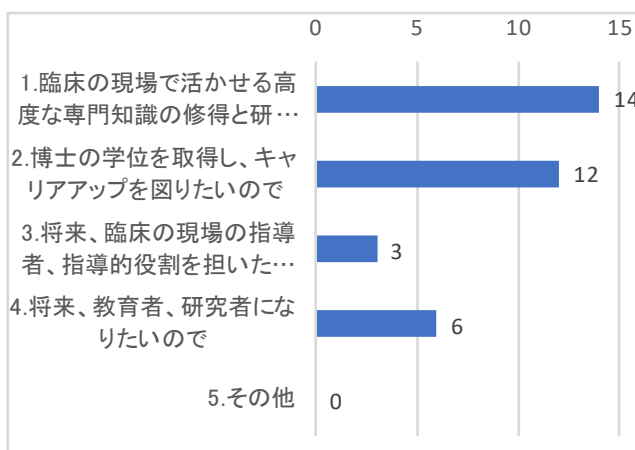


図9: 入学を検討した理由の割合

問10 進学先を選ぶ際に重視する点(重視した点)を教えてください。(あてはまるもの3つまでにチェックしてください)

表10: 進学先を選ぶ際に重視する点等 n=46

1.指導を受けたい教授・教員がいる	30	73%
2.学びたい教育プログラムがある	19	46%
3.奨学金が受けられる	3	7%
4.授業料の減免制度がある	2	5%
5.研究に重点が置かれている	17	41%
6.働きながら学べる	22	54%
7.施設や設備が整っている	8	20%
8.知名度が高く、ブランド力がある	1	2%
9.夜間・土曜日開講している	10	24%
10.長期履修制度がある	6	15%
11.遠隔授業が利用できれば	14	34%
12.その他	0	0%
無回答	4	10%

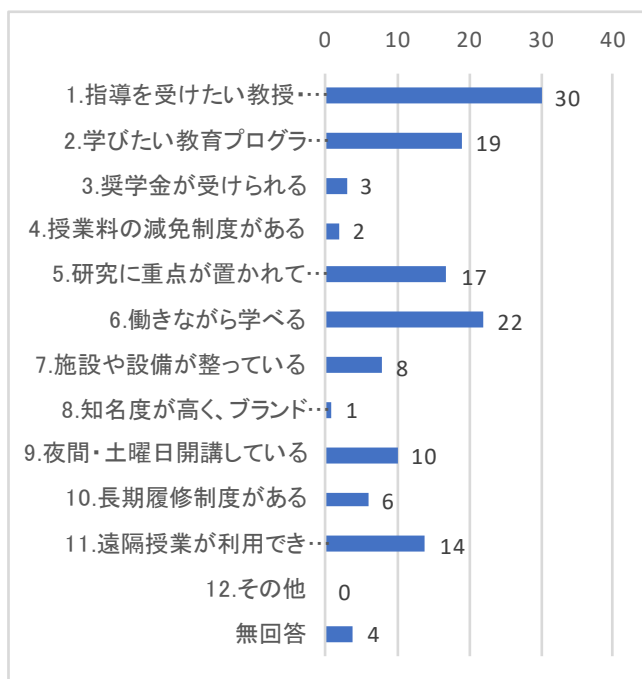


図10: 進学先を選ぶ際に重視する点等の割合

問11 あなたが現在保有している免許を教えてください。(あてはまるものすべてにチェックしてください)

表11: 保有免許 n=46

1.看護師	45	100%
2.保健師	16	36%
3.助産師	5	11%

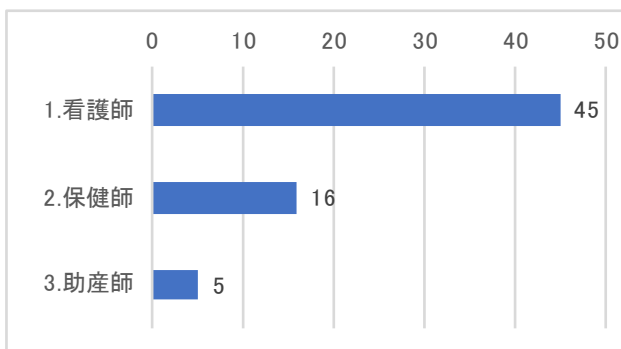


図11: 保有免許の割合

問12 あなたの居住地を教えてください。(あてはまるものにチェックしてください)

表12: 居住地 n=46

1.名護市	18	39%
2.北部11市町村	4	9%
3.中部・南部 ※その他に市町村名を記載してください。	24	52%
・県内内訳: うるま市3人、西原町1人、那覇市1人、南風原町1人、北中城村1人、計7人	-	-
・県外内訳: 愛知県、佐賀市、新潟県、神奈川県藤沢市、長野県、東京都、各1人、計6人	-	-
・無記入11人	-	-
総計	46	100%

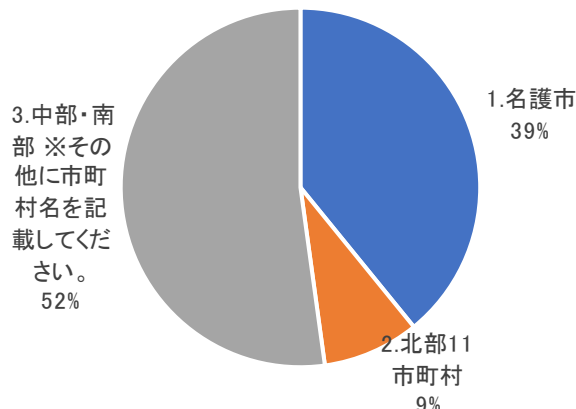


図12: 居住地の割合

問12 本博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があればご自由にお書きください。

- ・オンラインで参加できる体制
- ・ぜひ開設してほしいです。
- ・遠隔授業なども適宜取り入れて頂けたら、様々な意味で、よりフィールドを広げた研究も実現できるかと考えます。
- ・沖縄県北部に看護学博士課程ができる意義は大きいと思います。博士課程が設置されることを期待しています。
- ・看護の質の向上のために博士後期課程が開設できることを希望します
- ・金銭的な援助があると進学を決めやすいです
- ・県外にどんどんと情報を発信してほしい
- ・県北部地域にはないので、設置が必要と考えます。特に看護教員の養成では、県外の博士課程で学ぶ労力と経済的負担は、相当なものです。沖縄県の看護職養成を考えても、将来的にも必要と考えます。
- ・今後、後期課程ができることで近隣の医療施設にも良い意味での影響を及ぼしてくださるのではないかと期待しております。
- ・博士後期課程開設のご尽力に本当に感謝です。設置許可が決まりましたら、受験相談や研究計画等の事前相談等の入試情報を早めにいただけると助かります。

名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査（看護系大学・専門学校・病院対象）（令和3年2月実施）

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、名桜大学（以下、本学）において、看護学研究科看護学専攻博士後期課程の開設にあたり、九州・沖縄地区の看護系の高等教育機関、沖縄県の専門学校及び病院の看護管理者へ博士後期課程の需要を調査することで、本学博士課程開設の必要性を確認し、実証することを目的として実施したものである。

2. 調査の回答期間

令和3年2月1日（月）～令和3年2月15日（月）

3. 調査対象

九州・沖縄地区の看護系の高等教育機関及び沖縄県の看護系専門学校並びに病院の看護管理者

4. 調査方法

インターネット調査（Google フォームを活用し、専用のQRコードより読み込み回答）

5. 回収状況

九州地区看護系の高等教育機関 30 大学，県内看護系専門学校 5 校，県内病院（250 床以上の施設）32 か所に依頼。大学 21 件，専門学校 7 件，病院・診療所 18 件の 46 件から回答を得た（有効回答率 100%）

II 調査結果

1. 機関別の所在地

回答者を所属する位置を県別にみると、最も多かったのは、沖縄県 23 件（50%），次いで、宮崎県 8 件（17%），福岡県 5 件（11%）であった。

表 1 県別回答者数

n=46

1.沖縄県	23	50%
2.福岡県	5	11%
3.佐賀県	1	2%
4.長崎県	2	4%
6.大分県	3	7%
7.宮崎県	8	17%
8.鹿児島県	3	7%
総 計	46	100%

問1. 貴機関の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにチェックしてください)

46件の回答

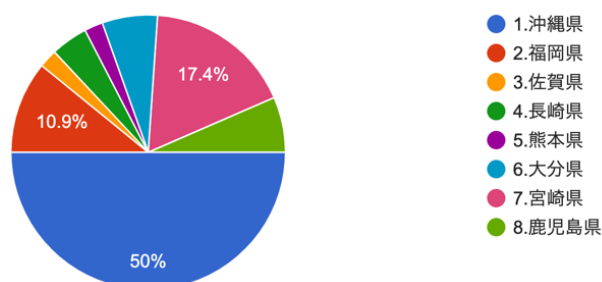


図1 県別回答者数の割合

2. 機関種別について

回答者を機関種別ごとにみると、最も多かったのは、大学 21 件(46%)、次いで、病院・診療所 18 件(39%)、専門学校 7 件(15%)であった。

※ 「大学」と回答した方は、問3以降を回答。

※ 「専門学校」及び「病院・診療所」と回答した方は、問4以降を回答。

表2 機関種別

n=46

1.大学	21	46%
2.専門学校	7	15%
3.病院・診療所	18	39%
総 計	46	100%

問2. 貴機関についてお答えください。(あてはまるもの1つにチェックしてください)

46件の回答

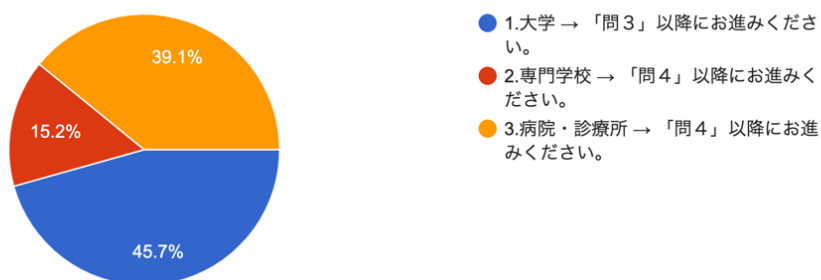


図2 機関種別回答者数の割合

3. 看護系学部学科及び大学院の設置状況について

問2において、所属機関が「大学」と回答した20件^注のうち、所属校における看護系課程の設置状況は、博士後期課程の設置がなく学士課程・修士課程までしか設置していない大学が、40%で、博士課程まで設置している大学が半数以上60%であった。

※ 問2の設問において、「大学」と回答した21件を対象とします。

表3 看護系学部学科及び大学院の設置状況

n=20

1.学部学科のみ設置	2	10%
2.大学院博士前期課程（修士課程）まで設置	6	30%
3.大学院博士後期課程（博士課程）まで設置	12	60%
総 計	20	100%

注：該当者は、21人であるが、1件無回答であった。

問3. 問2で1の場合、貴学の看護系学部学科及び...。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

20件の回答

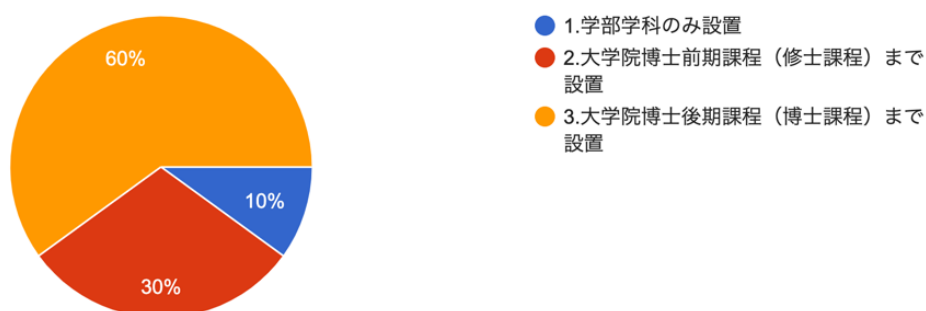


図3 看護系学部学科及び大学院の設置状況の割合

4. 大学院博士課程修了者の勤務の有無について

1)

- ① 回答者の所属する高等教育機関において、把握できる大学院博士後期課程修了者が「勤務している」割合は、46%であり、半数以上の割合で、博士後期課程修了者が勤務していない、または勤務の把握ができていない状況である。

※ 「勤務している」を回答した方は問4-2を回答

※ 「勤務していない」、「わからない」を回答した方は問5以降回答

表4 博士後期課程修了者の勤務の有無について

n=46

1.大学院博士後期課程修了の教員又は看護職者が勤務している。	21	46%
2.大学院博士後期課程修了の教員又は看護職者は勤務していない。	18	39%
3.わからない	7	15%
総 計	46	100%

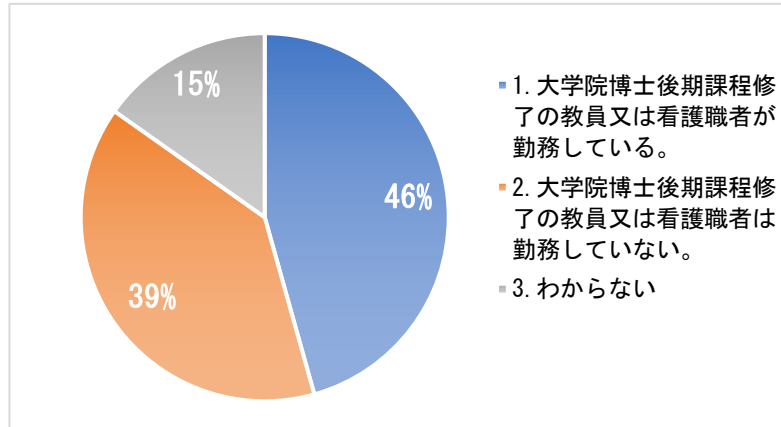


図4 博士後期課程修了者の勤務の有無の割合

- ② また、専門学校に絞って集計したところ、博士後期課程修了者は「勤務していない」との回答が71%以上であり、教員審査が厳格な大学との教育の質における格差が、雇用の有無に反映されていることが伺える（表5、図5）。

表5 専門学校における博士後期課程修了者の有無について n=7

1.勤務している。	2	29%
2.勤務していない。	5	71%
3.わからない	0	0%
総 計	7	100%

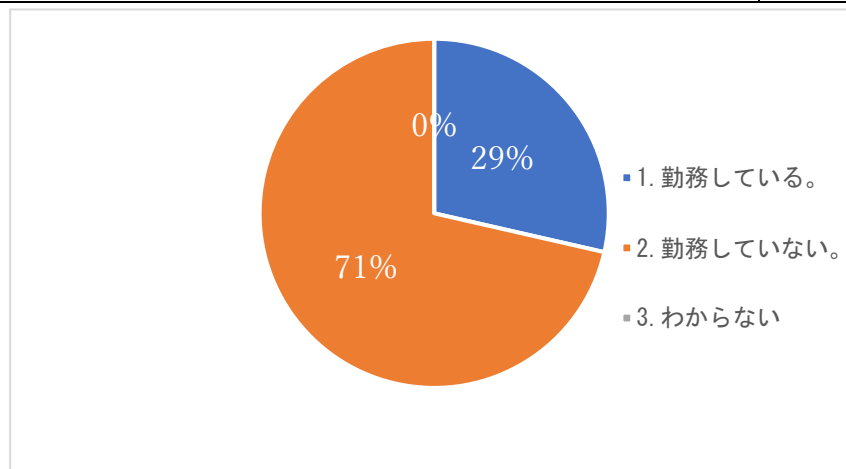


図5 専門学校における博士後期課程修了者の有無の割合

- ③ また、病院・診療所に絞って集計したところ、博士後期課程修了者は「勤務している」との回答が0%と、博士後期課程修了者は、教育機関等への就職が多いことが伺える（表6、図6）。

表6 病院・診療所における博士後期課程修了者の有無 n=18

1.勤務している。	0	0%
2.勤務していない。	12	67%
3.わからない	6	33%
総 計	18	100%

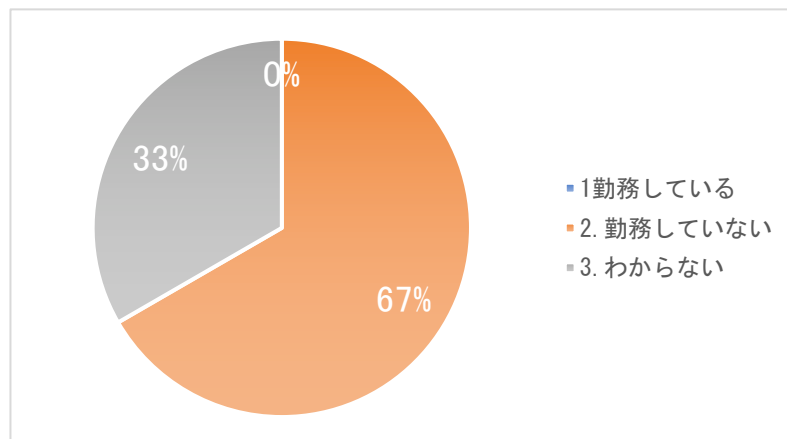


表6 病院・診療所における博士後期課程修了者の有無の割合

2) 上記1)①で、「勤務している」と回答した高等教育機関における雇用者数を表7, 図7に示す。「4人以上」と回答した割合が86%で最も多く, 大学, 専門学校においても, 教育の質向上の観点から, 博士後期課程修了者が多く求められている。

※ 表4の「1.大学院博士後期課程修了の教員又は看護職者が勤務している。」と回答した21人を対象とします。

表7 博士後期課程修了者の雇用者数

n21

1. 1人	2	10%
2. 2人	0	0%
3. 3人	1	5%
4. 4人以上	18	86%
総 計	21	100%

問4-2. (問4. で「勤務している」とした場合) 勤務されている人数
21件の回答

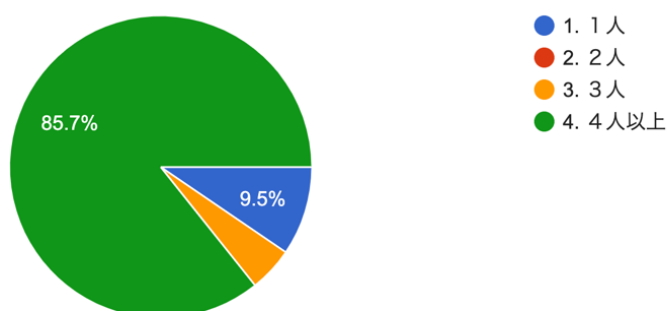


図7 博士後期課程修了者の雇用者数の割合

5. 本学大学院「看護学研究科看護学専攻」博士後期課程が養成する人材の社会需要

46人の回答者のうち「とても必要だと思う」が16件（35%）、「必要だと思う」が22件（48%）、合計38件（83%）から本学の養成する博士課程修了者がこれからの社会に必要なとの回答を得た（表8、図8）

表8 博士後期課程が養成する人材の社会需要

n-46

1.とても必要だと思う	16	35%
2.必要だと思う	22	48%
3.どちらともいえない	8	17%
4.必要でないと思う → アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。	0	0
総 計	46	100%

問5. 本学大学院「看護学研究科看護学専攻」博士...。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

46件の回答

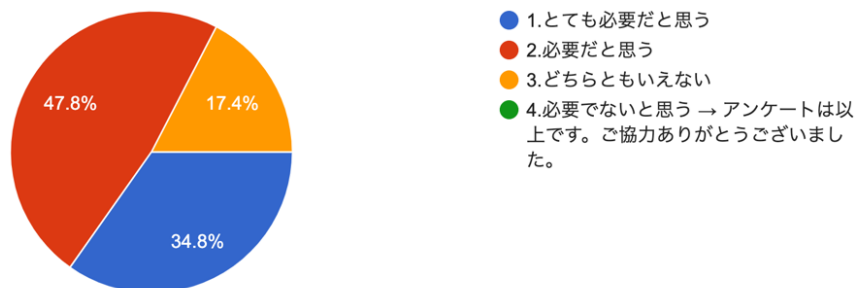


図8 博士後期課程が養成する人材の社会需要の割合

6. 本学大学院「看護学研究科看護学専攻」博士後期課程の、関心のある分野

本学博士後期課程に設置する3つの分野で、関心のある分野は、「生活支援看護学分野（地域包括看護学又は精神保健看護学）」36件（78%）、「基盤看護学分野（看護キャリア開発学）」33件（74%）、「応用看護学分野（がん看護学又は成育健康看護学）」20件（43%）の順で関心を持たれている分野であることがわかる。

表9 本学博士後期後期課程において、関心のある分野

n-46

1.基盤看護学分野（看護キャリア開発学）	34	74%
2.応用看護学分野（がん看護学又は成育健康看護学）	20	43%
3.生活支援看護学分野（地域包括看護学又は精神保健看護学）	36	78%
総 計	46	100%

問6. 本学大学院「看護学研究科看護学専攻」博士...、どの分野に関心がありますか。(複数回答可)
46件の回答

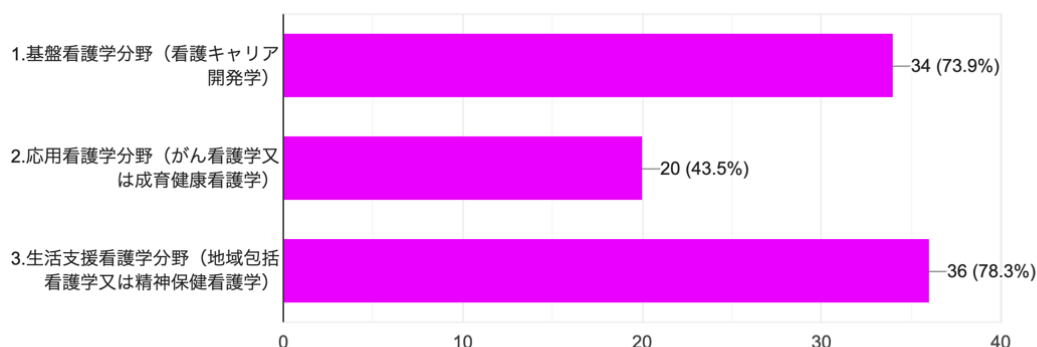


図9 本学博士後期後期課程において、関心のある分野の割合

7. 本学博士課程後期課程の採用意向について

回答者46件中「採用したい」14件(30%)、「採用を検討したい」15件(33%)と合計29件(63%)から採用意向が伺える回答を得た。(表10, 図10)

表10 本学博士後期課程の採用意向

n=46

1.採用したい	14	30%
2.採用を検討したい	15	33%
3.どちらともいえない	16	35%
4.採用しない	1	2%
総 計	46	100%

- 1.採用したい→※「問8」以降にお進みください。
- 2.採用を検討したい→※「問8」以降にお進みください。
- 3.どちらともいえない→※「問9」以降にお進みください。
- 4.採用しない→※「問9」以降にお進みください。

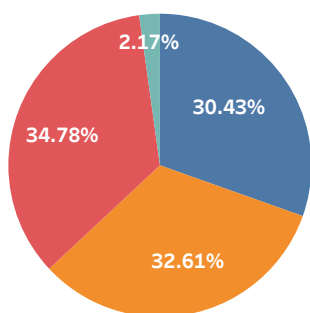


図10 本学博士後期課程の採用意向の割合

8. 上記7において、「1.採用したい」、「2.採用を検討したい」を選択した29件のうち、現時点で採用が可能と思われる人数の間に対する回答を表11に記す。本学博士後期課程が予定している入学定員2人、収容定員6人に対し、十分な需要が見込まれる。

	n-29		採用人数
1. 1人	21	72%	21
2. 2人	3	10%	6
3. 3人	1	3%	3
4. 4人以上	4	14%	16
総 計	29	100%	46

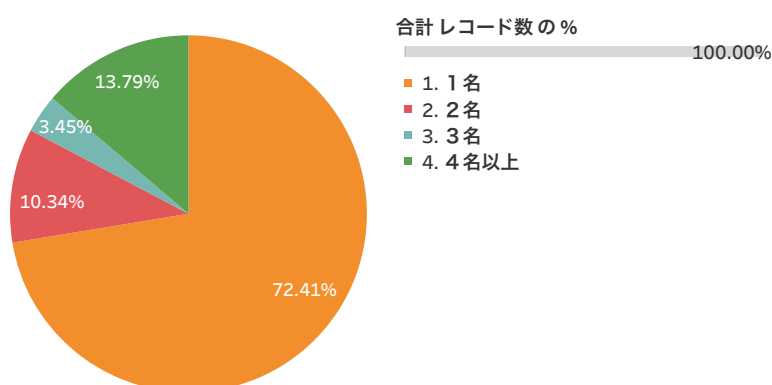


図 11 本学博士後期課程修了者の採用可能人数の割合

9. 今後の看護において、必要と思われる人材像について

今後の看護において、必要と思われる人材像は次の通りの順であった。「人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行うことができる教育研究者」37件（80%）、「看護学の発展に寄与できる教育研究者」30件（65%）、「沖縄の歴史やケアリング文化に根ざした看護を発展・創造する教育研究者」10件（22%）。（表12、図12）

	n-46	
1.沖縄の歴史やケアリング文化に根ざした看護を発展・創造する教育研究者	10	22%
2.人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行うことができる教育研究者	37	80%
3.看護学の発展に寄与できる教育研究者	30	65%
総計	46	100%

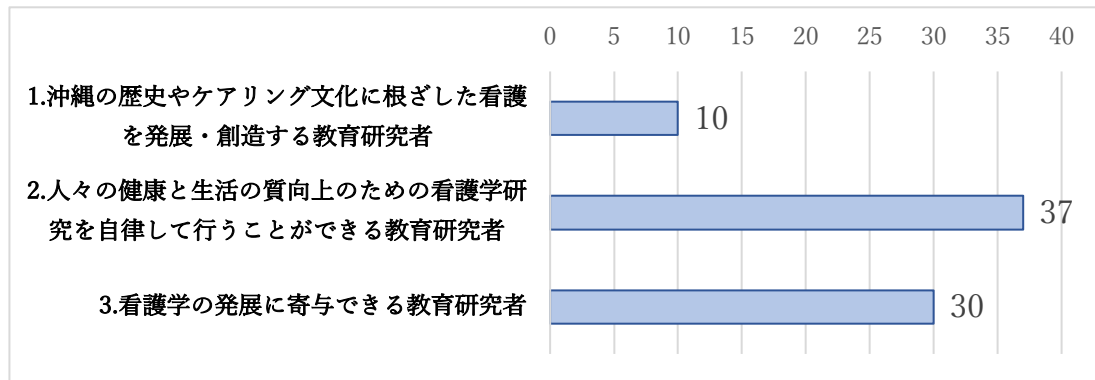


図 12 今後の看護において、必要と思われる人材像の割合

【自由記述】

- ・ 他県からでも学べるように、できるだけ遠隔教育で単位取得が出来る体制を整えてほしい。
- ・ 沖縄県の看護職に是非ケアリングを広め看護の原点を考える機械を広めて欲しい。
- ・ 遠隔での履修を可能にしてほしい。
- ・ 貴学で本過程が開設される事は、今後の地域の発展につながると思います。
- ・ 豊かな沖縄の環境の中で文化，ケアリングを深く考察できるので，想像力豊かな独創性のある研究ができるのではと期待されます。
- ・ 北部に研究ができる環境が整うことを期待しています。
- ・ 看護系の大学院が増え，教育を受けた修了生が増えていくことは看護自体を発展させることになるので望ましい姿と思います。これまでかなりのスピードで大学化したように思えるので，これから実質が備わっていくように博士を持った看護職がいろいろな現場で活躍していくことを希望します。
- ・ 県内では看護系大学が3校しかないので，3校が力を結集して県民のための人材育成を発展的に推進できることを祈っています。北部地区の人材育成にとって重要な拠点だと思います。応援しております。
- ・ 看護学の実践，教育，研究のバランスの取れた人材育成を期待しております。
- ・ 研究支援金の設置はとても参考になった

修士・博士課程在学中もしくは修士・博士の学位をお持ちの看護教員及び看護職の皆様

名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程設置調査委員会

名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）
に係るアンケート調査（依頼）

名桜大学は、平成23年（2011年）に設置した大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）に
続き、令和4年（2022年）に大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）の設置
を予定しています。

本学では皆様の進路についての率直な考えをお聞きし、大学院博士課程を開設の際には広く
看護職者（看護師・保健師・助産師・教員など）を大学院生として受け入れたいと考えていま
す。

このアンケートの回答は、設置構想にあたっての統計資料としてのみ活用するものであり、
個人を特定することや他の目的に使用することは一切ありません。

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 調査内容：「学生確保及び修了後の進路に関する調査」
2. 調査の回答期間：令和3年1月25日（月）から 2月5日（金）
3. 問い合わせ先：看護学研究科看護学専攻（修士課程）研究科長 永田 美和子
TEL:0980-51-1130
4. 回答方法：
 - 1) 回答は、設問により「どれか1つを選択」するもの、「複数回答可」するものがありますので、設問をよく読んで回答してください。
 - 2) 「名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）設置調査に関するアンケートについて」の回答は、みなさんがお持ちの①携帯電話、スマートフォン、iPhone 等によるインターネット上での回答とします。

① 携帯電話、スマートフォン、iPhone 等によるインターネット上での回答

携帯電話、スマートフォン、iPhone 等での回答にご承諾いただいた方は、下記の QR コードを読み取り、アンケートサイトにアクセスし、回答してください。

[アンケートはこちらから](https://forms.gle/xyvffUiz7pX694de8)



<https://forms.gle/xyvffUiz7pX694de8>

名桜大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査

名桜大学は、平成 23 年（2011 年）に設置した大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）に続き、令和 4 年（2022 年）に大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）の設置を予定しています。

本学では皆様の進路についての率直な考えをお聞きし、大学院博士課程を開設の際には広く看護職者（看護師・保健師・助産師・教員など）を大学院生として受け入れたいと考えています。

このアンケートの回答は、設置構想にあたっての統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することや他の目的に使用することは一切ありません。

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【アンケート対象者】

令和 3 年 1 月現在

修士・博士課程在学中もしくは修士・博士の学位をお持ちの看護教員及び看護職の皆様

【問い合わせ先】 総務企画部企画課 TEL:0980-51-1130 FAX:0980-52-4640

【大学院の概要】

開設年月：令和 4 年 4 月（予定）

名 称：看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）

入学定員：2 名

修業年限：3 年（長期履修制度あり、最大 6 年まで）

開講形態：昼夜及び土曜開講（大学院設置基準第 14 条適用）

学 位：博士（看護学）

設置場所：沖縄県名護市為又 1220-1

【養成する人材】

本博士課程では、沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解をもとに、人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行い、看護学の発展に寄与する高度な研究能力及びその基礎となる幅広く豊かな学識を養うことを目的とする。

【教育課程の概要】

以下の図表 1 を参照してください。

【年間授業料】

以下の図表 3 を参照してください。

（学生納付金の設定の考え方）

本学の授業料は、国立大学の標準額に準じて設定しており、沖縄県内の他の国公立大学大学院の授業料と同額である。入学金は、県内国公立大学大学院の中で最も低く設定している。

なお、「地域内」に該当する者については、入学金を「地域外」の半額に設定する。また、本学修士課程修了生の入学金は、「地域内」の半額とする。

【奨学金】

名称：名桜大学大学院看護学研究科奨学金（給付型）

対象：学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により修学が困難であること認められる者

【大学院学生研究支援補助金】

本学に在学する大学院（博士後期課程）学生への研究支援として次のとおり研究支援の補助を行います。

1. 支給対象者：博士後期課程に在籍する1年次及び2年次並びに3年次の正規学生（休学者は除く）
2. 補助金額：1年次：26,000円、2年次：26,000円、3年次：52,000円

【修了後の進路】

主に大学等の教員や行政等の看護職

図表1) 教育課程の概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態
			必修	選択	
共通科目 3科6単位 必修 1科目2単位 選択必修	看護学研究特論	1前	2		講義
	沖縄のケアリング文化と看護	1前	2		講義
	沖縄の保健看護政策特論	1後		2	講義
	生体環境看護科学特論	1後		2	講義
	看護教育学特論	2前	2		講義
専門科目 1科目2 単位選択	基盤看護学 看護キャリア開発学特論	1通		2	演習
	応用看護学 がん看護学特論	1通		2	演習
		成育健康看護学特論	1通		2
	生活支援看護学 精神保健看護学特論	1通		2	演習
		地域包括看護学特論	1通		2
研究科目	看護学特別研究	1～3通	6		演習

※専門科目は、5科目から1科目を選択する。

※計画は予定であり、今後変更する場合がある。

【修了要件】

本博士課程に3年以上在籍し、所定の単位（16単位以上）を取得し、論文審査及び最終試験に合格すること。

図表2) 年間授業料

入学金等 大学等の名称	入学金		授業料 年間	備考
	域内	域外		
名城大学 看護学研究科看護学専攻(博士後期後期課程)	125,000 ※「沖縄県北部出身者」	250,000円	535,800	※長期履修制度の利用で最大6年間まで3年分の学費で在籍できます。 ※本学卒業生・修了生の入学金は、「地域内」の半額となります(62,500円)。
琉球大学 琉球大学保健学研究科(博士後期課程)	282,000円		535,800	
沖縄県立大学 保健看護学研究科保健看護学専攻(博士後期課程)	282,000円 ※2「県内居住者」	512,000円	535,800	

問1 あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

1. 20歳代
2. 30歳代
3. 40歳代
4. 50歳以上

問2 あなたの現在の職種を教えてください。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

1. 看護師
2. 保健師
3. 助産師
4. 看護教員
- その他

問3 あなたが現在勤務している職場を教えてください。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

1. 病院・診療所 【病床数】300床未満
2. 病院・診療所 【病床数】300～500床未満
3. 病院・診療所 【病床数】500～1000床未満
4. 訪問看護ステーション
5. 高齢者福祉施設
6. 行政機関
7. 看護系の大学・養成所等
8. 大学院生
- その他

問4 あなたの取得している学位について教えてください。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

1. 修士取得済み
2. 博士取得済み ※「問10」以降にお答えください。
3. 修士課程に在学中
4. 博士課程に在学中 ※「問10」以降にお答えください。
5. 該当しない (質問は以上です。修士課程の入試情報をご希望の方は、問14に連絡先をご記入下さい。後日資料をお送りします。)

(問4-2. で、1. 2. 3. 4.、いずれかをチェックした場合) 学位の種類・名称を記載してください

問5 あなたは本学大学院博士後期課程への進学を希望していますか。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

1. 進学を希望している ※「問6」以降にお答えください。
2. 進学に興味がある ※「問6」以降にお答えください。
3. わからない ※「問10」以降にお答えください。
4. 進学を希望していない。 ※「問10」以降にお答えください。

問6 本学大学院博士後期課程の、どの分野に関心がありますか。(複数回答可)

基盤看護学分野(看護キャリア開発学を専攻した場合)

・基盤看護学分野は、質の高い看護実践を行う専門職者として、看護実践の基盤となる教育方法を検討し、キャリア開発のモデルを構築する。

応用看護学分野(がん看護学又は成育健康看護学を専攻した場合)

・応用看護学分野は、健康のレベル・ケアの場に共通した看護実践を応用的に捉えて、エビデンスを創造し看護学のモデルを構築する。特にがんの予防やがんに罹患した人々、女性と子どもおよび家族の支援を探究する。

生活支援看護学分野(地域包括看護学又は精神保健看護学を専攻した場合)

・生活支援看護学分野は、保健医療福祉のニーズを見据え、社会の中で生活者として生きる人々の尊厳保持、QOL、自立支援を高めるケア・ケアサポート等について施設や自宅の場における当事者主体を基盤とする支援を探究する。

- 1.基盤看護学分野(看護キャリア開発学)
- 2.応用看護学分野(がん看護学又は成育健康看護学)
- 3.生活支援看護学分野(地域包括看護学又は精神保健看護学)

問7 あなたは本学大学院博士後期課程が開設されれば、入学したいと思いますか。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

- 1.入学したい ※「問8」以降にお答えください。
- 2.入学を検討したい ※「問8」以降にお答えください。
- 3.入学したいと思わない
- 4.わからない ※「問10」以降にお答えください。

問8 名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程(設置構想中)への進学時期は、いつ頃を考えていますか。(あてはまるもの一つにチェックしてください)

- 1.令和4年(開設予定年度)
- 2.令和5年度
- 3.令和6年度
- 4.令和7年度以降

問9 名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程(設置構想中)に入学する、もしくは入学を検討したいと回答した理由は何ですか。(あてはまるものすべてにチェックしてください)

- 1.臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので
 - 2.博士の学位を取得し、キャリアアップを図りたいので
 - 3.将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたいので
 - 4.将来、教育者、研究者になりたいので
- その他

問10 進学先を選ぶ際に重視する点(重視した点)を教えてください。(あてはまるもの3つまでにチェックしてください)

- 1.指導を受けたい教授・教員がいる
- 2.学びたい教育プログラムがある
- 3.奨学金が受けられる

- 4.授業料の減免制度がある
- 5.研究に重点が置かれている
- 6.働きながら学べる
- 7.施設や設備が整っている
- 8.知名度が高く、ブランド力がある
- 9.夜間・土曜日開講している
- 10.長期履修制度がある
- 11.遠隔授業が利用できれば
- その他

問1 1 あなたが現在保有している免許を教えてください。(あてはまるものすべてにチェックしてください)

- 1.看護師
- 2.保健師
- 3.助産師

問1 2 あなたの居住地を教えてください。(あてはまるものにチェックしてください)

- 1.名護市
- 2.北部 11 市町村
- 3.中部・南部 ※その他に市町村名を記載してください。

その他：

問1 3 本博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があればご自由にお書きください。

問1 4 博士課程が開設された場合本学で学びたいという意思をお持ちの方は、連絡先を下記にご記載下さい。文部科学省の設置認可後入試情報をお送りいたします。

※ 関係する方々への配布をお願いいたします。不足する場合は、複写してお使いください。

令和3年2月

名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査（看護系大学・専門学校・病院対象）（依頼）

名桜大学は、平成23年（2011年）に設置した大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）に続き、令和4年（2022年）に大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（仮称・設置構想中）の設置を予定しています。

本学では貴職における人材需要についての率直な考えをお聞きし、大学院博士後期課程の開設の際には、広く看護職者や看護教員を大学院生として受け入れたいと考えています。

このアンケートの回答は、設置構想にあたっての統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することや他の目的に使用することは一切ありません。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 調査内容：「採用意向に係るアンケート調査（看護系大学・専門学校・病院対象）」
2. 調査の回答期間：令和3年2月1日（月）～令和3年2月15日（月）
3. 問い合わせ先：看護学研究科看護学専攻（修士課程）研究科長 永田 美和子
TEL:0980-51-1130
4. 回答方法：
 - 1) 回答は、設問により「どれか1つを選択」するもの、「複数回答可」するものがありますので、設問をよく読んで回答してください。
 - 2) 「名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）に係るアンケート調査（看護系大学・県内専門学校・県内病院対象）」の回答は、みなさんがお持ちの携帯電話、スマートフォン、iPhone 等によるインターネット上での回答とします。下記のQRコードを読み取り、アンケートサイトにアクセスし、回答してください。

[アンケートはこちらから](https://forms.gle/nPtdDZepZFZEh9z39)



<https://forms.gle/nPtdDZepZFZEh9z39>

名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）採用意向に係るアンケート調査（看護系大学・県内専門学校・県内病院等の看護管理者対象）

名桜大学は、平成 23 年（2011 年）に設置した大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）に続き、令和 4 年（2022 年）に大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）の設置を予定しています。

本学では貴職における人材需要についての率直な考えをお聞きし、大学院博士後期課程の開設の際には、広く看護職者や看護教員を大学院生として受け入れたいと考えています。

このアンケートの回答は、設置構想にあたっての統計資料として活用するものであり、個人を特定することや他の目的に使用することは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【アンケート対象者】

令和 3 年 1 月現在

九州・沖縄エリアにおける看護系の高等教育機関の学長・研究科長・学部長・学科長、専門学校長・教務責任者、病院の看護管理者の皆様

【問い合わせ先】 総務企画部企画課 TEL:0980-51-1130 FAX:0980-52-4640

【大学院の概要】

開設年月：令和 4 年 4 月（予定）

名称：看護学研究科看護学専攻博士後期課程（設置構想中）

入学定員：2 名

修業年限：3 年（長期履修制度あり、最大 6 年まで）

開講形態：昼夜及び土曜開講（大学院設置基準第 14 条適用）

学位：博士（看護学）

設置場所：沖縄県名護市為又 1220-1

※図表 1）沖縄県における本学の位置関係図 参照

【養成する人材】

本博士課程では、沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解をもとに、人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行い、看護学の発展に寄与する高度な研究能力及びその基礎となる幅広く豊かな学識を養うことを目的とする。

【教育課程の概要】

以下の図表 2 を参照してください。

【年間授業料】

以下の図表 3 を参照してください。

（学生納付金の設定の考え方）

本学の授業料は、国立大学の標準額に準じて設定しており、沖縄県内の他の国公立大学大学院の授業料と同額である。入学金は、県内国公立大学大学院の中で最も低く設定している。

なお、「地域内」に該当する者については、入学金を「地域外」の半額に設定する。また、本学修士課程修了生の入学金は、「地域内」の半額とする。

【奨学金】

名称：名桜大学大学院看護学研究科奨学金（給付型）

対象：学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により修学が困難であること認められる者

【大学院学生研究支援補助金】

本学に在学する大学院（博士後期課程）学生への研究支援として次のとおり研究支援の補助を行います。

1. 支給対象者：博士後期課程に在籍する1年次及び2年次並びに3年次の正規学生（休学者は除く）
2. 補助金額：1年次：26,000円、2年次：26,000円、3年次：52,000円

【修了後の進路】

主に大学等の教員や行政等の看護職

図表1) 沖縄県における本学の位置関係図



図表2) 教育課程の概要

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業 形態
			必修	選択	
共通科目 3科6単位 必修 1科目2単位 選択必修	看護学研究特論	1前	2		講義
	沖縄のケアリング文化と看護	1前	2		講義
	沖縄の保健看護政策特論	1後		2	講義
	生体環境看護科学特論	1後		2	講義
	看護教育学特論	2前	2		講義
専門科目 1科目2 単位選択	基盤看護学 看護キャリア開発学特論	1通		2	演習
	応用看護学 がん看護学特論	1通		2	演習
		成育健康看護学特論	1通		2
	生活支援看護学 精神保健看護学特論	1通		2	演習
		地域包括看護学特論	1通		2
研究科目	看護学特別研究	1~3通	6		演習

※専門科目は、5科目から1科目を選択する。

※計画は予定であり、今後変更する場合がある。

【修了要件】

本博士課程に3年以上在籍し、所定の単位（16単位以上）を取得し、論文審査及び最終試験に合格すること。

図表3) 年間授業料

入学金等 大学等の名称	入学金		授業料 年間	備考
	域内	域外		
名城大学 看護学研究科看護学専攻 (博士後期後期課程)	125,000 ※「沖縄県北部出身者」	250,000 円	535,800	※長期履修制度の利用で最大6年間まで3年分の学費で在籍できます。 ※本学卒業生・修了生の入学金は、「地域内」の半額となります(62,500円)。
琉球大学 琉球大学保健学研究科 (博士後期課程)	282,000 円		535,800	
沖縄県立大学 保健看護学研究科保健看護学専攻(博士後期課程)	282,000 円 ※2「県内居住者」	512,000 円	535,800	

問1. 貴機関の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 沖縄県
2. 福岡県
3. 佐賀県
4. 長崎県
5. 熊本県
6. 大分県
7. 宮崎県
8. 鹿児島県

問2. 貴機関についてお答えください。(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 大学 → 「問3」以降にお進みください。
2. 専門学校 → 「問4」以降にお進みください。
3. 病院・診療所 → 「問4」以降にお進みください。

問3. 問2で1の場合、貴学の看護系学部学科及び大学院の設置状況についてお答えください。
(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 学部学科のみ設置
2. 大学院博士前期課程(修士課程)まで設置
3. 大学院博士後期課程(博士課程)まで設置

問4. 貴機関における、「看護系」大学院博士課程修了者の勤務の有無についてお答えください。
(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 大学院博士後期課程修了の教員又は看護職者が勤務している。 → 「問4-2」以降にお進みください。
2. 大学院博士後期課程修了の教員又は看護職者は勤務していない。 → 問5 以降にお進みください。
3. わからない → 問5 以降にお進みください。

問4-2. (問4. で「勤務している」とした場合) 勤務されている人数

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人以上

問5. 本学大学院「看護学研究科看護学専攻」博士後期課程が養成する人材は、これからの社会にとって必要であると思われますか。(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. とても必要だと思う
2. 必要だと思う
3. どちらともいえない
4. 必要でないと思う → アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

問6. 本学大学院「看護学研究科看護学専攻」博士後期課程の、どの分野に関心がありますか。(複数回答可)

基盤看護学分野（看護キャリア開発学を専攻した場合）

・基盤看護学分野は、質の高い看護実践を行う専門職者として、看護実践の基盤となる教育方法を検討し、キャリア開発のモデルを構築する。

応用看護学分野（がん看護学又は成育健康看護学を専攻した場合）

・応用看護学分野は、健康のレベル・ケアの場に共通した看護実践を応用的に捉えて、エビデンスを創造し看護学のモデルを構築する。特にがんの予防やがんになり患した人々、女性と子どもおよび家族の支援を探究する。

生活支援看護学分野（地域包括看護学又は精神保健看護学を専攻した場合）

・生活支援看護学分野は、保健医療福祉のニーズを見据え、社会の中で生活者として生きる人々の尊厳保持、QOL、自立支援を高めるケア・ケアサポート等について施設や自宅の場における当事者主体を基盤とする支援を探究する。

1. 基盤看護学分野（看護キャリア開発学）
2. 応用看護学分野（がん看護学又は成育健康看護学）
3. 生活支援看護学分野（地域包括看護学又は精神保健看護学）

問7. 貴機関において、本学大学院「看護学研究科看護学専攻」博士後期課程の修了生（看護学博士号取得者）を採用したいと希望しますか。(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 採用したい → 「問8」以降にお進みください。
2. 採用を検討したい → 「問8」以降にお進みください。
3. どちらともいえない → 「問9」以降にお進みください。
4. 採用しない → 「問9」以降にお進みください。

問8. 問7で、1か2の場合、現時点で採用が可能と思われる人数をご回答ください。(あてはまるもの1つにチェックしてください)

1. 1名
2. 2名
3. 3名
4. 4名以上

問9. 今後の看護において、必要と思われる人材像を以下の中からお選びください。(あてはまるものすべてにチェックしてください)

1. 沖縄の歴史やケアリング文化に根ざした看護を発展・創造する教育研究者
2. 人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行うことができる教育研究者
3. 看護学の発展に寄与できる教育研究者

問10. 本博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があればご自由にお書きください。

資料 5

近隣競合校の志願状況

【博士後期課程】

大学名	研究科・専攻名	入学定員	R2 年度 志願倍率	人材の養成に関する目的その他教育 研究上の目的
琉球大学 大学院	保健学研究科 保健学専攻	3	2.0	<p>本研究科は、広い視野に立って精深な学識を授け、心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有する保健学分野の研究者及び指導者を養成することを目的とする。</p> <p>※琉球大学大学院の教育研究上の目的（HP掲載）より引用</p>
沖縄県立 看護大学 大学院	保健看護学研 究科保健看護 学専攻	2	1.0	<p>博士後期課程では看護分野における研究者として自立した研究活動を行なうのに必要な高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p> <p>※沖縄県立看護大学の教育理念と教育目標（HP掲載）より引用</p>

資料 6

沖縄県内大学院看護学研究科看護学専攻博士課程位置図

